

富山大学 学報



(題字 大井信一 学長)

第316号

目 次

平成元年度卒業式(学長告辞)..... 2	教育学部附属学校長の改選.....15
関係法令..... 4	教育学部附属教育実践研究指導センター長 の改選.....16
諸会議..... 4	平成元年度全国公務員レクリエーション共 同行事富山地区ボウリング大会の開催..... 17
学内規則..... 5	海外渡航者..... 17
富山大学水素同位体機能研究センター設立 準備委員会要項の制定..... 5	学位取得者..... 17
学内トピックス..... 7	職員の訃報..... 18
人事異動..... 8	お知らせ..... 19
学 事..... 9	国家公務員の交替制等職員の週40時間勤務 制の試行の実施について..... 19
富山大学国際交流事業基金による各種事業 募集要項の発表..... 9	単身赴任手当の新設について..... 19
平成2年度文部省在外研究員派遣者の決定.....13	職員消息..... 20
平成2年度文部省内地研究員派遣者の決定.....13	主要行事..... 20
学内諸報..... 14	資 料..... 23
平成2年度富山大学入学試験の実施.....14	平成元年度富山大学卒業(修了)者数..... 23
教養部長の改選.....15	平成2年度富山大学学年暦..... 24
保健管理センター所長の改選.....15	

平成元年度富山大学卒業式の挙行

平成元年度富山大学卒業証書、修了証書並びに修士学位記授与式が、平成2年3月24日(土)午前10時30分から富山市公会堂において挙行されました。

大井学長から、合計1,384名の卒業生及び修了生に卒業(修了)証書が授与されるとともに、学長告辞で90年代は地球環境を保全するため、科学技術や人類の生活の在り方などを真剣に見直す努力をすること、また、能力主義社会の到来や労働市場の国際化の中では、

強靱な精神力、体力及び明確な目的意識を持って仕事に生きがいを見出し、来るべき21世紀への新しい社会の建設に努力せよとの饒けの言葉が述べられた。

また、当日は、富山市公会堂前に先輩の卒業を祝福するため数多くの在学生在がそれぞれ趣向を凝らして参集し、風雨の吹き荒れるあいにくの天気をはねのけ、賑やかな門出となりました。引き続き、午後からは各学部ごとにお祝いのパーティなどが催されました。



あてやかな服装で出席し、学長告辞に聴き入る卒業生



証書授与に先立ち、本学フィルハーモニー管弦楽団によりエルガー作曲「威風堂々」など2曲が演奏される



あいにくの天気の中、卒業を祝福する在在学生らで混雑する富山市公会堂ホール前

学長告辞(全文)

ただいま、卒業証書、修了証書あるいは修士学位記を授与されました1,384名にのぼる諸君は、本学における所定の課程を終え、本日ここにめでたく卒業の日を迎えられた方々でありまして、教職員一同心から祝福を申し上げます。諸君の喜びもさることながら、御家族の方々のお喜びはさぞかしと推察いたします。

諸君のうち、ほとんどの人が16年以上に及ぶ学校教育に別れを告げるときが来たわけでありまして。本学における勉学や学生生活は、その締めくくりにあふさわしい充実感と将来の展望に大きな自信を諸君に与えたものと確信しております。しかしながら、本格的情報化社会の到来とともに、産業構造は転換し、生活様式が変貌するなど、人々の価値観や考え方が多様化する中で社会システムの変化や知識の陳腐化が速い今日、社会人又は職業人として第一線で活躍するためには、さらに今後一層の研鑽が必要であります。学窓を去るに当たって、新たな目標と不退転の決意を持って生涯学習の社会へ出発してください。

ところで、西暦2000年まであと10年、節目の年を迎えたわけでありまして、激動の80年代は、2つの大きな問題をわれわれに残したように思います。その一つは、ソ連、東欧、中国におこった民主化の嵐から、改めて社会経済体制の在り方が問われたことでありまして。そして今一つは、地球環境保全という緊急課題であります。東欧の劇的な変動は単純に社会主義の敗北とか、資本主義の勝利を意味するものではありません。申すまでもなく、今日の西側の自由主義国家の経済体制は、かつての資本主義経済体制とは本質的に異なるもので、19世紀の社会主義者たちが提起した社会変革の要素を広範に取り込んだ複合経済体制であります。政治的自由と民主主義を取り戻した東欧諸国の目指しているものもいわゆる資本主義ではなく、機能的な社会民主主義を組み込んだ複合経済体制であります。しかしながら、西側のこの経済体制も地球環境破壊という大きな障壁によって、転換の必要に迫られております。わが国をはじめ西側の先進工業国は、これまで無反省に物質的な豊かさを追求し、資源浪費的産業文明に酔ってきましたが、遂に80年代後半に地球規模の環境破壊という付けが廻ってきたわけでありまして。さらに、新興工業国や発展途上国といわれる国々までも経済発展のために工業化に一層の努力を傾けており、わが国

からの技術移転などを強く望んでいるところもあります。このような世界規模での工業化の進展は、地球環境への負荷を一層増大させることは目に見えており、自然環境は懐減的な打撃を受け、21世紀における人類の生存が危ぶまれております。このような事態はなんとしても避けなければなりません。しかし、工業化の波を抑えることは難しいと思います。とすれば、基盤となる科学技術を省資源、省エネルギー効果を一層高める資源リサイクル技術やクリーンエネルギー開発などの自然環境に優しい新しい技術を実用化するとともに、われわれ人類の生活パターンも環境にマッチしたのに見直すことが重要であります。便利さや利益を追求する科学技術から人類生き残りの道を探る科学技術への転換が、次の10年間にどこまで実現出来るか、人類の運命をかけた課題であると思います。どうぞ皆さん、それぞれの職場においてのこの問題に真剣に対応し、身近かなところ、気のついたことから取り上げて、共通の課題の解決に積極的に取り組んでほしいと思います。

さて、このところ好景気が続いた当然の結果として、深刻な人手不足を招いております。就職に当たって求人数の多いのに驚いたことと思います。しかしながら、産業構造の変化や人々、特に若い人々の価値観や仕事に対する考え方の多様化などによって、選ぶ方も選ばれる方も雇用に関する対応が従来とかなり変わってきたように思われます。市場や消費の成熟化、商品の多様化、ライフサイクルの短期化などに対応して、多品種少量生産化が進展するなかで、コストを上げずにいかに付加価値を生みだすかに、企業は日夜苦慮しており、生産管理システムの電算化はもとより、ハードな生産技術よりむしろコンピューターソフトなどの技術に重点が移ってきました。どの企業も若い頭脳を生産システムや営業活動のソフトの開発につき込む傾向が強くなって来ています。したがって、企業は雇用形態の多様化を進めるなかで、生産性や組織の効率を追求するために、年功序列型から能力主義に、終身雇用型から使い捨て主義に移行する傾向が見られます。働く者はよほど強靱な精神力や体力、はっきりした目的意識を持っていないと、組織に所属するうとうしき、人間関係の煩わしさや、自由と気ままの許されない責任と義務にひしがれて、ドロップアウトしたり、安易に転職をするはめに陥らざるを得ません。一方、企業の海外進出や外国企業のわが国への参入など労働市場や労働環境の国際化が進むなかで、人々の職業や労働

に対する考え方も変わってきました。経済摩擦などの外圧にもよりますが、労働時間の短縮、ゆとりと生活の重視、高齢化福祉への準備など働く者のマイホームあるいは個人中心主義が強まって来ています。したがって、生涯一つの仕事にかけるといった気概や企業のためという企業中心の考え方などの意識はうすくなっており、若者の企業離れも増えております。もちろん、「何か」をやるための条件、理由又は動機など、目的意識を明確に持って自立や転職する場合は、それなりに納得も出来ますが誰でもうまくいくとは限りません。報酬や待遇のみを追わず、仕事に対する倫理観を持って、仕事に生きがいを見い出して、自己の能力を考えて慎

重に行動することが大切だと思います。

本学も開学以来40年を経過し、約3万人に及ぶ卒業生を社会に送り出して来ました。好不況の波はありましたが、それぞれの時代にふさわしく経済、社会活動に積極的に従事し、わが国の今日の繁栄や地域社会の発展に大きく貢献してまいりました。この輝かしい実績と伝統を継承して、諸君も来るべき21世紀における新しい社会の建設に力いっぱい努力してほしいと思います。どうぞくれぐれも健康に留意され、大いに活躍されんことを祈念して、門出に当たっての餞けの言葉といたします。

関係法令

規 則

- 単身赴任手当（人事院9-89） 2・15

諸 会 議

第11回入学試験管理委員会・第10回入学者選抜方法研究委員会の合同委員会（2月2日）

（審議事項）

- (1) 平成2年度富山大学入学者選抜における2段階選抜について
- (2) 平成2年度富山大学入学者選抜試験の検査場について
- (3) 平成2年度富山大学入学者選抜学力検査に伴う構内整理要項（案）について
- (4) 平成2年度富山大学入学試験問題採点委員について（追加）

第1回保健管理センター委員会（2月2日）

（議 題）

- (1) 次期保健管理センター所長の選考について

第1回教務委員会（2月6日）

（議 題）

- (1) 平成2年度非常勤講師任用計画について
- (2) その他

第4回大学院委員会（2月9日）

（審議事項）

- (1) 平成2年度富山大学大学院人文科学研究科（修士課程）入学試験合格者の判定について
- (2) 平成2年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）第2次入学試験合格者の判定について

第5回黒田講堂管理運営検討委員会（2月9日）

（議 題）

- (1) 黒田講堂の管理運営について
- (2) その他

第3回公開講座委員会（2月13日）

（議 題）

- (3) 予算に関する事項
- (4) 放射性同位元素の使用許可に関する事項
- (5) トリチウム科学センターとの研究継続に関する事項
- (6) その他設立準備に関する必要な事項
(センター長等の推薦及び選考)

第4条 センター長及び教官の選考は、準備委員会の推薦により学長が行う。

(議事及び運営)

第5条 準備委員会に委員長を置く。委員長は、委員の互選による。

- 2 委員長は、準備委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。
- 3 準備委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開会できない。
- 4 議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長がこれを決する。
- 5 センターが設置されたときは、準備委員会の議決事項をセンターの管理運営機関の議決事項とみなす。
- 6 その他準備委員会の運営に必要な事項は、委員長が定める。

(庶務)

第6条 委員会の事務は、庶務部庶務課において処理

する。

附 則

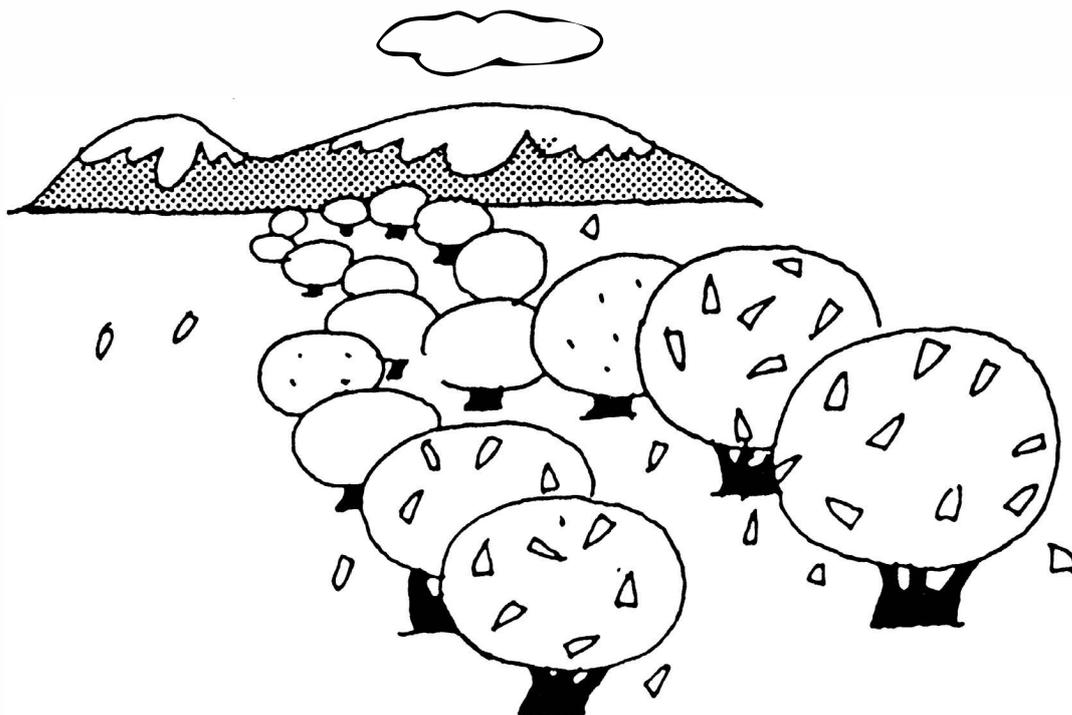
- 1 この要項は、平成2年2月16日から実施する。
- 2 この要項は、富山大学水素同位体機能研究センターが設立された日に、その効力を失う。

▶ 富山大学水素同位体機能研究センター設立準備委員会要項の制定理由

富山大学水素同位体機能研究センターの設立に伴う設立準備委員会に関し、必要事項を定める。

富山大学水素同位体機能研究センター設立準備委員会要項の申し合せ事項

富山大学水素同位体機能研究センター（以下「新センター」という。）設立のための平成2年度本予算の成立及び国立学校設置法施行規則の一部改正が遅れることにより新センターが平成2年4月1日に設立されない場合、平成2年4月1日以後新センターが設立されるまでの間、平成2年3月31日において富山大学水素同位体機能研究センター設立準備委員会要項第2条第1項第1号及び第2号の委員であった者については、引き続き第6号の委員としてその職務を行うものとする。



学内トピックス

第1回富山県留学生等交流推進会議運営委員会が開催される

平成元年11月21日に設立された富山県留学生等交流推進会議の第1回運営委員会が、去る2月20日(火)富山県民会館において開催された。

まず、同委員会の委員長に本学瀧澤学生部長が選出され、また、幹事には、富山県学術国際課長、とやま

国際センター事務局長、富山医科薬科大学学生課長及び本学学生課長の4氏が選出された。

次いで、委員会は、当面、留学生の宿舎問題を協議することとし、併せて、留学生の生活実態等のアンケート調査の実施や会報発行などについて申合せを行った。



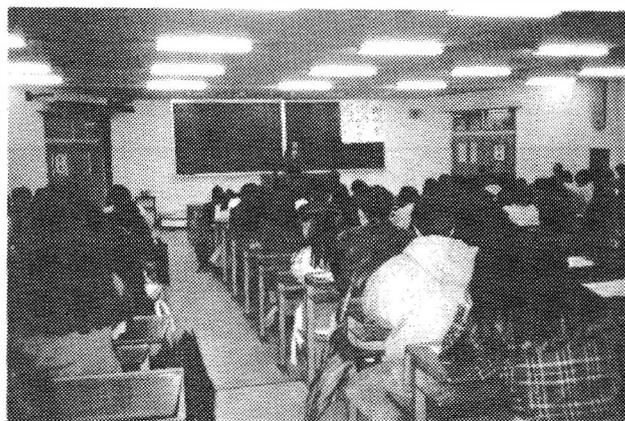
運営委員会の第1回会合で挨拶する同会議議長の大井学長



今後の運営について協議する推進会議運営委員会

公務員採用試験に関する講演会に130名が聴講する

公務員を志望する本学学生を対象に、公務員採用試験、任用制度などについて情報を提供し、同試験を受験する際の必要な知識と心構えを身につけさせるため、平成2年2月23日(金)午後1時から経済学部201番教室で、公務員採用試験に関する講演会が開催された。講師に人事院中部事務局第二課長 松原 裕氏、富山県人事委員会事務局任用課課長代理 松井 清氏を招へいし、国家公務員関係と地方公務員関係について講演があり、出席学生が熱心にメモなどをとっていた。



多数の学生が参集し、講演に聴き入る

本学留学生に「とやま名誉大使」の称号が授与される

富山県を広く海外へ紹介するため、富山県が国際交流及び国際理解に関心があり、これに貢献した外国人に称号を授与している「とやま名誉大使」に、次の本学留学生3名が、去る3月23日(金)富山県庁で知事から委嘱状と記念品が授与された。なお、委嘱期間は2年で、今後の活躍が期待されている。

工 学 部	李 東 盧 (マレーシア, 男)
工 学 部	ロハマド ビン ファケー (マレーシア, 男)
工学研究科	ペレズ アルバレズ ルイス エドアルド (グアテマラ, 男)

富山大学経営短期大学部が残留学生の卒業で廃止となる

国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和61年法律第26号)附則第3項の規定に基づき存続してきた富山大学経営短期大学部(昭和61年度から学生募集停止)は、本年3月、2名の学生の卒業で学生がいなくなることから、平成2年3月31日をもって廃止されることになった。



経済学部東側玄関に、はめ込まれていたプレートも近々外され、保存が予定されている

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
昇 任	2 . 3 . 1	春 山 義 夫	講 師 (工学部)	助教授 (工学部)
退 職	2 . 2 . 28	本 田 善 彦	事務補佐員 (附属図書館)	平成2年2月27日限り退職した
	"	小田木 治太郎	" (")	"
	"	伊 藤 克 江	" (")	"
辞 職	2 . 2 . 10	経 田 愛 美	" (")	辞職を承認する
	2 . 2 . 15	長 多 玄 子	" (経理部主計課)	"
	2 . 2 . 28	岡 本 一 雄	臨時用務員 (教育学部 作業員)	"
併 任	2 . 2 . 20	藤 田 宏	教 授 (工学部)	附属図書館長・評議員(～4.2.19)
死 亡	2 . 2 . 21	古 谷 嘉 志	助教授 (工学部)	死 亡 (公務外)

学 事

富山大学国際交流事業基金による各種事業の募集要項の発表

平成2年度が第2回目となる富山大学国際交流事業基金の各種事業の募集要項が、去る3月9日(金)開催の平成元年度第4回国際交流委員会において決定され、学内に周知されました。

なお、募集要項の種別は、次の7つに分かれており、以下にその要項を掲載します。

① 第1種海外派遣事業(A)

② 第1種海外派遣事業(B)

③ 第2種外国人研究者の招へい事業(A)

④ 第2種外国人研究者の招へい事業(B)

⑤ 第3種外国留守への奨学事業

⑥ 第3種外国人留学生への奨学事業

⑦ 外国人留学生への宿舍費補助事業
(富山大学国際交流後援会事業)

平成2年度富山大学国際交流事業基金第1種海外派遣事業(A)募集要項

1. 趣 旨

富山大学(以下「本学」という。)における研究・教育の国際交流推進の一環として、本学の教官をその専攻する学問分野等について調査研究のために、交流協定を締結した遼寧大学に派遣する。

2. 派遣対象者及び予定者数

本学教官の職にある者 1名

3. 派遣期間

3ヶ月以内とする。

4. 出発の時期

平成2年6月1日から平成3年3月31日までの間、遼寧大学が受入可能な時期とする。

5. 支給経費

(1) 国内旅費

本学から国際空港までの間の往復旅費(鉄道賃、日当及び宿泊料)を支給する。

(2) 航空賃

国際空港を起点とした往復航空賃(エコノミック

ラス以下のできるだけ低廉となる運賃を利用するものとする。)を支給する。

6. 申請手続

派遣を希望する者は、次に掲げる書類を所属部局長に提出する。

(1) 申請書(様式1)(略)

(2) 申請者調書(様式2-1~2)(略)

7. 提出期限

平成2年4月28日(土)までとする。

8. 選 考

選考は、富山大学国際交流委員会が行い、その結果は所属部局長を通じ申請者に通知する。

9. 報告書の提出

派遣者は、帰国後速やかに派遣報告書(様式3)(略)を学長に提出すること。

10. その他

(1) 滞在費は、遼寧大学が負担するため支給しない。

(2) 支度料は、支給しない。

平成2年度富山大学国際交流事業基金第1種海外派遣事業(B)募集要項

1. 趣 旨

富山大学(以下「本学」という。)における研究・教育の国際交流推進の一環として、本学の教官等をその専攻する学問分野等について調査研究のために海外に派遣するとともに、本学の教官、事務職員等

を国際交流業務について理解を深め、又は同業務の遂行を円滑に行うため締結した大学若しくは締結しようとする海外の大学に派遣する。

2. 派遣対象者及び予定者数

本学の教職員 3名

3. 派遣期間
原則として、2週間以内とする。
4. 出発の時期
平成2年6月1日から平成3年3月31日までの間に
出発可能な者とする。
5. 支給経費
支給額は、40万円を限度とし、次に掲げる旅費を
支給する。なお、この経費は外国出張の場合に限り
支給され、海外研修旅行には支給されない。したが
って、必要な旅費が支給額を超える場合には、旅費
は本事業基金から支給される経費のほか、国（委任
経理金を含む）、外国の政府関係機関、国際機関、
大学等の教育関係機関、公益法人、その他の公共的
機関から支給されることが必要である。
- (1) 国内旅費
本学から国際空港までの間の往復旅費（鉄道賃、
日当及び宿泊料）を支給する。
- (2) 航空賃
国際空港を起点とした往復航空賃（エコノミー
クラス以下のできるだけ低廉となる運賃を利用す
るものとする。）を支給する。
- (3) 滞在費
文部省在外研究員規程で定める日当、宿泊料を
支給する。ただし、支給額が限度額を超える場合
は、日当、宿泊料を減額調整することができる。
6. 申請手続
派遣を希望する者は、申請書（様式4-1～2）
（略）を所属部局長に提出する。
7. 提出期限
平成2年4月28日(土)までとする。
8. 選 考
選考は、富山大学国際交流委員会が行い、その結
果は所属部局長を通じ申請者に通知する。
9. 報告書の提出
派遣者は、帰国後速やかに派遣報告書（様式5）
（略）を学長に提出すること。
10. その他
(1) 支度料は、支給しない、
(2) 所属部局長は、申請者が複数の場合は推薦順位
を付すこと。

平成2年度富山大学国際交流事業基金第2種外国人研究者の招へい事業(A)募集要項

1. 趣 旨
富山大学（以下「本学」という。）における研究・
教育の国際交流推進の一環として、交流協定を締結
した遼寧大学の研究者をその専攻する学問分野等
について調査研究のために、本学に招へいする。
2. 招へい対象者及び予定者数
遼寧大学の研究者 1名
3. 招へい期間
3ヶ月以内とする。
4. 招へいの時期
平成2年6月1日から平成3年3月31日までの間、
本学が受入可能な時期とする。
5. 支給経費
- (1) 国内旅費
本邦の出入港を起点とした本学までの間の往復
旅費（鉄道賃、日当及び宿泊料）を支給する。
- (2) 滞在費
滞在費（日当及び宿泊料）は、1日5,000円を
本学到着の日から本学出発日の前日までの日数に
応じて支給する。
- (3) 国内視察旅行等の旅費
支給総額は5万円を限度として、本学から目的
地までの往復運賃（鉄道賃、車賃、船賃等）を支
給する。
6. 申請手続
招へいを希望する者は、次に掲げる書類を所属部
局長に提出する。
- (1) 招へい申請書（様式6-1～2）（略）
(2) 招へい候補者調書（様式7-1～2）（略）
7. 提出期限
平成2年4月28日(土)までとする。
8. その他
遼寧大学から本邦までの往復旅費は、遼寧大学が
負担するため支給しない。

平成2年度富山大学国際交流事業基金第2種外国人研究者の招へい事業(B)募集要項

1. 趣 旨

富山大学（以下「本学」という。）における研究・教育の国際交流推進の一環として、日本滞在中の著名な外国人研究者（外国におおむね10年以上在住し、現にその国の学界で活躍している日本人研究者を含む。以下同じ。）を招へいし、本学の研究者との討議、意見交換、研究指導、講演等を通じて、本学の研究・教育の発展に寄与することを目的とする。

2. 招へい対象者及び予定者数

(1) 招へい対象者

イ. 我が国との間に国交関係のある国の国籍を有する者

ロ. 日本国籍を有する者で、外国におおむね10年以上在住し、現にその国の学界で活躍している者

(2) 予定者数 若干名

3. 招へい期間

5日間以内とする。

4. 招へい時期

平成2年6月1日から平成3年3月31日までの間に来学が可能な者とする。

5. 支給経費

(1) 旅 費

日本国内の滞在地から本学までの間の往復旅費（鉄道賃、車賃、船賃、航空賃）を支給する。

(2) 滞在費

滞在費は、1日16,900円（日当4,200円、宿泊料12,700円）を支給する。ただし、本学宿泊施設を利用する場合の滞在費は、1日11,200円（日当

4,200円、宿泊料7,000円）とする。

6. 申請手続

外国人研究者の招へいを希望する者は、次に掲げる書類を所展部局長に提出する。

(1) 招へい申請書（様式8-1～2）（略）

(2) 招へい候補者調書（様式9-1～2）（略）

7. 募集及び提出期限

募集は、前期及び後期の2期に区分して行うものとする。申請書等の提出期限は、前期にあつては平成2年4月28日(土)までとし、後期にあつては平成2年7月31日(火)までとする。

8. 選 考

選考は、富山大学国際交流委員会が行い、その結果は所属部局長を通じ申請者に通知する。

9. 報告書の提出

外国人研究者を招へいした者は、招へい期間満了後、速やかに招へい報告書（様式10）（略）を学長に提出すること。

10. その他

(1) 他の機関から旅費又は滞在費等を支給されている場合は、滞在地からの往復運賃のみを支給し、給与を受けている場合は、5.(1)に準じて旅費を支給する。

(2) 同伴者の経費は、負担しない。

(3) 外国人研究者が来学可能であることを確認できる文書を既に得ている場合は、申請書類に添付すること。

(4) 外国人研究者の講演等に対する謝金を必要とする場合は、招へい経費に含めて申請すること。

平成2年度富山大学国際交流事業基金第3種外国留学への奨学事業募集要項

1. 趣 旨

富山大学（以下「本学」という。）における教育の国際交流推進の一環として、外国への留学を希望する本学の学生に対し、奨学のための学資金を給付することを目的とする。

2. 応募資格

(1) 富山大学に在籍する学生（研究生、聴講生等を除く。）で、平成2年度中に私費で外国への留学を決定（予定も含む。）している者とする。

(2) 学業成績が優秀であること。

3. 支給学資金額

学資金として10万円を限度として支給する。

4. 支給方法

学資金は、原則として渡航時に一括支給する。

5. 募集人員

若干名

6. 申請手続

学資金を希望する者は、次に掲げる書類を所属部

- 局長を通じ学長に提出する。
- (1) 申請書(様式11-1~2)(略)
- (2) 受入れ大学等からの受入れを承認する文書
- (3) 指導教官等の推薦状(様式12)(略)
- (4) 前年度の学業成績証明書
7. 提出期限
外国の大学等へ留学しようとする3ヶ月前までとする。
8. 選考
選考は、富山大学国際交流委員会が行い、その結果は所属部局長に通知する。
9. 報告書の提出
奨学生は、帰国従速やかに派遣留学生に関する報告書(様式13)(略)を学長に提出するものとする。

平成2年度富山大学国際交流事業基金第3種外国人留学生への奨学事業募集要項

1. 趣 旨
富山大学(以下「本学」という。)における教育の国際交流推進の一環として、外国人留学生に対し、奨学のために学資金を給付することを目的とする。
2. 応募資格
本学に在籍する外国人留学生で、次に掲げる要件を備えた者とする。
- (1) 経済的な理由により、学費の支弁が困難であること。
- (2) 学業成績が優秀であること。
3. 支給学資金額
学資金として月額1万円を支給する。
4. 支給方法
(1) 学資金の支給日は、毎月20日とし、当日が日曜日等により支給できない場合は、翌日以降の支給できる日とする。
- (2) 支給期間内において、支給日以前に本学を離れ帰国の途に着く等により本学に戻らない場合は、当該月及び翌月以降は支給しない。
5. 支給期間
平成2年4月1日から平成3年3月31日までの1年間とする。ただし、勉学状況等で学資金を支給するにふさわしくないと判断されたときは、奨学期間中であっても、学資金の支給を停止することがある。
6. 募集人員
12名以内とする。
7. 申請手続
学資金を希望する者は、次に掲げる書類を所属部局長を通じ学長に提出する。
- (1) 申請書(様式14-1~2)(略)
- (2) 指導教官等の推薦状(様式15)(略)
8. 提出期限
平成2年5月10日(木)までとする。
9. 選考
選考は、富山大学国際交流委員会が行い、その結果は所属部局長に通知する。

平成2年度外国人留学生への宿舍費補助事業募集要項 (平成2年度富山大学国際後援会事業)

1. 趣 旨
富山大学(以下「本学」という。)における教育の国際交流推進の一環として、外国人留学生が本学の留学生会館に入居できず民間の宿舍(借間、下宿、アパート、マンションをいう。以下同じ。)に入居した場合に、入居時における宿舍費の負担を軽減するため、その経費の一部を補助することを目的とする。
2. 応募資格
本学に在籍する外国人留学生で、民間の宿舍に入居した者とする。
3. 支給金額
宿舍費補助として、入居時に3万円を支給する。
4. 申請手続
宿舍費補助を希望する者は、平成2年5月10日(木)までに外国人留学生宿舍費補助申請書(様式16)(略)を所属部局長を通じ学長に提出する。
5. 選考
選考は、富山大学国際交流委員会が行い、富山大学国際交流後援会の理事会の承認を経た上で、その結果を所属部局長に通知する。

以 上

平成2年度文部省在外研究員派遣者の決定

種 類	部 局 名	職 名	氏 名	主たる滞在地名及び当該滞在地の属する国名並びに派遣先の機関名	調 査 研 究 題 目	派 遣 期 間
長期(甲)	工 学 部	助 手	山 田 茂	バーミンガム (連合王国) バーミンガム大学	合成多結晶ダイヤモンド工具の切削性能と摩耗機構に関する研究	平成2年10月22日 } 平成3年8月21日
	経済学部	教 授	榊原 英夫	シャンペーン (アメリカ合衆国) イリノイ大学	欧米におけるインフレーション会計	平成3年3月16日 } 平成4年1月15日
短 期	経済学部	助教授	志津田一彦	ニューヨーク (アメリカ合衆国) コロンビア大学	海事先取得権・抵当権(船舶担保物権)の比較法的分析	平成2年9月1日 } 平成2年10月31日
	教養部	教 授	中越 矩方	ジュネーブ (スイス) ジュネーブ大学	代数体の類数の研究	平成2年9月4日 } 平成2年11月3日
若手教官	理 学 部	助 手	西村 克彦	オックスフォード (連合王国) オックスフォード大学 クラレンドン研究所	超低温核整列の核磁気共鳴法による希土類金属間化合物の磁性の研究	平成2年6月1日 } 平成3年3月31日

平成2年度文部省内地研究員派遣者の決定

所 属	職 名	氏 名	研 究 場 所	研 究 課 題	派 遣 期 間
教 養 部	助教授	江上 繁樹	立 教 大 学	対称空間のゼータ関数の解析的性質の研究	平成2年5月1日 } 平成3年2月28日
経済学部	助教授	小倉 利丸	東京外国語大学	現代資本主義分析のための方法論的諸前提の研究	平成2年9月1日 } 平成3年2月28日
経済学部	助教授	相澤 吉晴	東 北 大 学	国際取引における銀行保証	平成2年9月1日 } 平成3年2月28日



学 内 諸 報

平成2年度富山大学入学試験が実施される

平成2年度富山大学入学者選抜学力検査等が、去る3月4日(日)・5日(月)の両日にわたり実施された。

第1日目は、早朝小雨がぱらついたが、日中は晴れ間ものぞく穏やかな天候になり、交通渋滞等による遅刻や事故等もなく、2日間の日程を無事終了した。

今回は、新設なった黒田講堂が、受験者・父兄等の控室として始めて利用され、好評を博した。

両日の受験対象者 7,864名(男 5,578名, 女 2,286

名)のうち 7,104名が受験し、欠席者は 760名、欠席率では 9.7%となり昨年(8.7%)より若干欠席者が増えた。

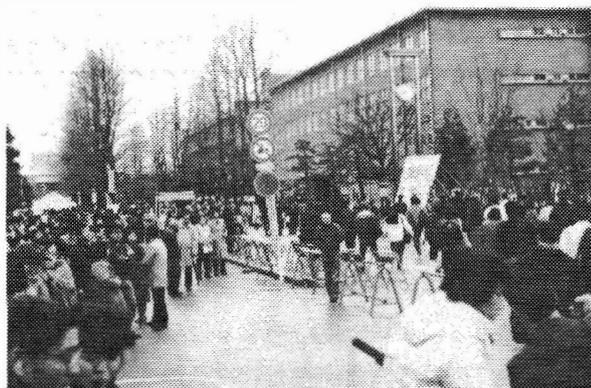
合格者の発表は、3月20日(火)午後1時本学で行われ、本人にも進知される。

なお、理学部物理学科において、定員一部留保第2次募集(募集人員12名)が行われ、その合格発表は、3月31日(日)正午に行われる。

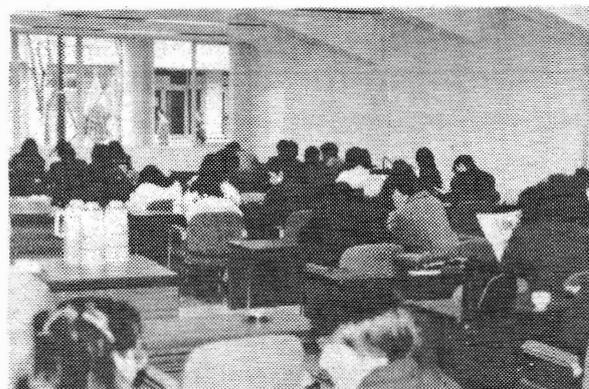
●受験状況

学 部	人文学部	教育学部	経済学部	理 学 部	工 学 部	合 計
志 願 者 数	674名	1,299名	2,471名	1,092名	2,328名	7,864名
受 験 者 数	606名	1,220名	2,216名	978名	2,084名	7,104名
欠 席 者 数 (一部欠を含む)	68名	79名	255名	114名	244名	760名
欠 席 率	10.1%	6.1%	10.3%	10.4%	10.5%	9.7%

(注) 上表には、人文学部、経済学部、理学部、工学部の推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜の志願者数等を含んでいない。



正門から試験室へ向う受験生で膨れあがった
メインストリート



控室として開放された黒田講堂内会議室

教養部長に大谷教授が再選される

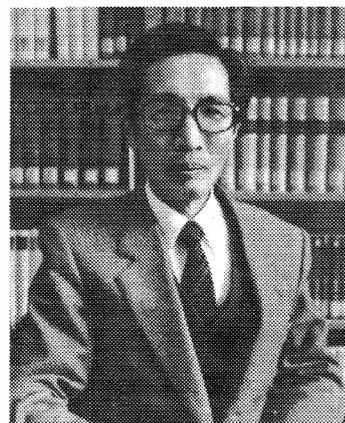
大谷重彦教養部長の任期が、平成2年3月31日で満了することに伴い、教養部教授会は、去る2月14日(水)に次期教養部長候補者の選挙を行った。

その結果、現職の大谷重彦教授が再選された。任期は平成2年4月1日から2年間。

大谷教授は、昭和29年3月京都大学(旧制)文学部文学科独文専攻を卒業、引き続き、昭和30年3月まで京都大学大学院に在学、昭和33年4月から富山大学文理学部講師、昭和39年3月文理学部助教授となり、昭和42年4月教養部発足と同時に教養部助教授に配置換となり、昭和46年4月教養部教授に昇任され、現在に至っている。

なお、この間、昭和60年4月から富山大学評議員を併任、昭和63年4月から教養部長を併任されている。

担当は、ドイツ語、62才。



保健管理センター所長に理学部風巻教授が選出される

稲垣保彦保健管理センター所長の任期満了に伴う次期保健管理センター所長候補者の選考は、平成2年2月27日(火)開催の第2回保健管理センター委員会において、推薦のあった風巻紀彦教授(理学部)が選出された。

任期は、平成2年4月1日から2年間。

風巻教授は、昭和40年3月北海道教育大学を卒業、昭和42年3月東北大学大学院修士課程修了、昭和42年4月東北大学理学部助手、昭和48年4月東北大学教養部助教授、昭和53年4月富山大学理学部教授となり、現在に至っている。

担当は、数理統計学、49才、理学博士。



教育学部附属学校(園)長が改選される

教育学部附属小学校長、同中学校長、同養護学校長、及び同幼稚園長の任期が、平成2年3月31日で満了することに伴い、教育学部教授会は、去る2月14日(水)に次期附属学校園長候補者の選挙を行った。その結果、附属小学校長候補者に宗孝文教授を再選、同中学校長候補者に中川暉教授を再選、同養護学校長候補者に新井文男教授を選出、同幼稚園長候補者に岸井勇雄教授が選出された。

新井文男教授、岸井勇雄教授は新任、他の2名は再選となり、任期は、平成2年4月1日から2年間。

新任の新井文男教授は、昭和34年3月東京芸術大学音楽部を卒業、公立学校教員を経て、昭和48年4月富山大学教育学部講師、昭和51年6月教育学部助教授、平成元年4月教育学部教授となり、現在に至っている。

担当は、声楽、54才。

岸井勇雄教授は、昭和30年3月東京大学教育学部を

卒業、昭和34年3月東京大学大学院人文科学研究科修士課程、昭和37年3月同研究科博士課程単位取得退学、公立学校教員、文部省初等中等教育局幼稚園課教科調

査官を経て、昭和63年4月富山大学教育学部教授となり、現在に至っている。

担当は、幼児教育、58才。



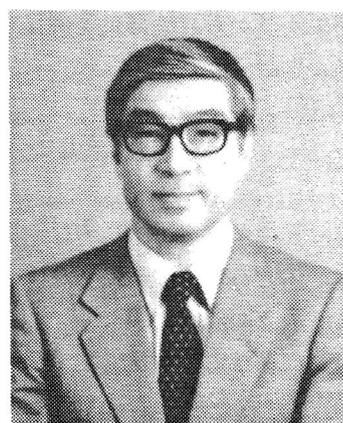
宗 附属小学校長



中川 附属中学校長



新井 附属養護学校長

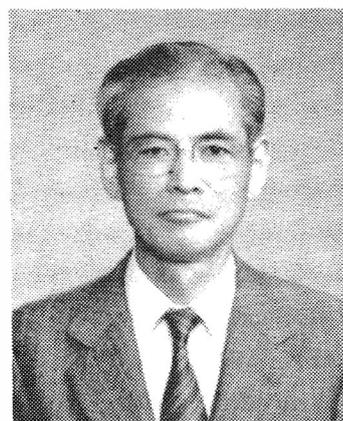


岸井 附属幼稚園長

教育学部附属教育実践研究指導センター長に 佐々木教授が再選される

佐々木光三教育学部附属教育実践研究指導センター長の任期が、平成2年3月31日に満了することに伴い、教育学部教授会は、去る2月14日(水)に同センター長候補者の選挙を行った。

その結果、現職の佐々木光三教授が再選された。任期は、平成2年4月1日から2年間。



平成元年度全国公務員レクリエーション共同行事 富山地区ボウリング大会が開催される

平成元年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区ボウリング大会が、去る2月17日(日)富山ゴールデンボウルにおいて開催された。大会には12事業所から計19チームの参加があり、本学からは3チームが出場し、Bチームの土肥隆三選手(経済学部)が個人4位と健闘したが、団体戦では、惜しくも上位入賞はな

らなかった。

なお、団体戦の成績は次のとおりでした。

優 勝	富山医科薬科大学 A チーム
次 勝	富山食糧事務所 A チーム
3 位	中部運輸局富山陸運支局

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
海外研修 旅	教育学部	助 手	結城 善之	インドネシア共和国	インドネシア国立ハサヌデイン大学との研究協力及びプロジェクトに関する協議・資料収集	2. 2. 26) 2. 3. 7

学 位 取 得 者

学位取得者 トリチウム科学センター 講師 松山政夫
 学位の種類 工学博士(名古屋大学)
 取得年月日 平成2年3月8日
 学位論文名 金属及び酸化物に対するトリチウムの吸着-脱離に関する研究

学位取得者 理学部 助手 笠原一也
 学位の種類 理学博士(北海道大学)
 取得年月日 平成2年3月24日
 学位論文名 ピリジルアゾアミノフェノールコバルト錯体等とのイオン会合を用いる分離分析法の研究

平成2年春の全国交通安全運動の実施

(目 的)

本運動は、国民一人一人に交通安全知識を普及し、交通安全思想の高揚を図るとともに、正しい交通ルールと交通マナーの実践を習慣付けることにより、交通事故防止の高揚を図ることを目的とする。

(期 間)

平成2年4月6日(金)～4月15日(日)(10日間)

(運動の重点目標)

1. 子供と高齢者の歩行中、自転車乗用中の交通事故防止
2. 若年運転者による無謀運転の防止
3. 正しい方法によるシートベルト、ヘルメットの着用の徹底



訃 報

工学部 古谷 嘉志助教授逝去

工学部助教授古谷嘉志先生が、平成2年2月21日心不全により、富山赤十字病院で死去されました。

享年57才。

古谷先生は、昭和32年3月東京工業大学大学院理工学研究科修士課程応用力学専攻を修了後、同年5月本学工学部助手、昭和36年4月同講師、昭和38年8月同助教授に就任され、教育・研究に従事されました。

先生は、人格円満で識見も高く、卓越した教育者・研究者として、昭和32年5月工学部に奉職以来32年有余の永きにわたり、終始、熱意と温情をもって、学部学生・大学院生の教育・指導にあたられ、多数の有為な高度技術者・研究者の育成に大きく貢献されました。

先生の専門分野は、応用数学（ステファン問題、拡散方程式及び計算法）で、「Variational Principle of Melting Elastic Solid」ほか多数の論文を発表され、学会及び関係者から高く評価されていました。

工学部は、平成元年度及び平成2年度の両年度にわたり学科改組を行う等、科学・技術・生産の著しい進歩と発展に対応した教育・研究体制の構築の緒についたところであり、教育者・研究者として有能な先生を失ったことは誠に残念であります。

ここに、先生の御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

経済学部 島 十四郎教授逝去

経済学部教授島 十四郎先生が、平成2年3月17日肺機能不全により、富山県立中央病院で死去されました。

享年64才。

島先生は、昭和29年3月東京大学法学部を卒業後、研究を深めるべく同学部に学士入学され、その後、昭和36年4月東京大学法学部助手、昭和40年1月熊本大学法文学部講師、同年10月同学部助教授、昭和46年8月同学部教授、昭和51年4月筑波大学社会科学系教授を経て、平成元年4月富山大学経済学部教授に就任され、この間、教育・研究の両面にわたって尽力されました。

先生は、富山大学在職1年足らずにもかかわらず、その卓越した識見と教育者、研究者としての豊富な経験により学生のみならず、教職員からも恩師のように尊敬され、常に温顔をもって後進の指導に尽されました。

先生の専門は、商法学で、30数年間にわたって数多くの研究業績を上げられ、学界はもとより各界において

も高く評価されていました。

経済学部は、現在、大学院修士課程設置に向けて準備中であり、この面でも既に筑波大学等の教授として直接携わってこられた先生を失ったことは、誠に残念であります。

ここに、先生の御冥福を祈り、謹しんで哀悼の意を表します。



お知らせ

国家公務員の交替制等職員の週40時間勤務制の試行について

週40時間とする勤務制を実施するものとした場合における問題点の把握及び必要な対策の検討に資することを目的として、週40時間勤務制の試行が実施されます。

本学は、前半グループとなり、平成2年4月1日から平成2年9月29日までの間実施されます。

1 試行対象職員

閉庁機関に勤務する交替制職員及び開庁機関（土曜閉庁を実施していない機関）に勤務する教職員（非常勤職員を除く。）が対象となります。ただし、附属学校の教員については、学校週5日制の調査研究を実施する学校の教員が対象となります。

2 試行実施期間

平成2年4月1日から平成3年3月30日までの間、国立大学等の機関を前半・後半の2グループに分け、機関単位に26週間試行が実施されます。

3 試行の実施方法

試行は、職務専念義務の免除の方法により実施され、職務専念義務の免除は、4週間ごとに職員の勤務時間について1週間当たり2時間の割合で行われます。

なお、この場合において、職員の各割振り単位期間における勤務を要しない日の日数と、1日の勤務時間のすべてについて職務に専念する義務が免除される日の日数との合計日数が、できる限り、1週間当たり2日の割合となるように努めるものとされています。

単身赴任手当の新設について

平成元年給与法の改正に伴い、支給要件該当者に対して、平成2年4月分から単身赴任手当が支給されることになりました。

支給要件等は、次のとおりですので、該当する職員は、各部局(課)庶務担当係へ届け出てください。

1 支給要件

官署を異にする異動等に伴い転居し、やむを得ない事情により同居していた配偶者と別居し、単身で生活することを常況とし、次の距離制限を満たす職員

2 距離制限と支給額

(職員の住居と配偶者の住居との距離)

60km以上100km未満	月額	20,000円
100km以上300km未満	〃	24,000円
300km以上500km未満	〃	28,000円
500km以上700km未満	〃	32,000円
700km以上1,000未満	〃	35,000円
1,000km以上	〃	38,000円

16日 授業時間割担当者会議
 19日 係長会議
 21日 教授会
 人事教授会
 人文科学研究科委員会
 22日 事務連絡会
 学部将来計画委員会

19日 係長会議
 20日 係長会議
 21日 学部入学方法検討委員会
 23日 学部将来構想検討委員会
 26日 学部教務委員会
 人事教授会
 教授会

教育学部

2月1日 大学院設置準備検討委員会
 2日 附属小学校入学者第1次選考（発育検査）
 3日 教育専攻科入学者選抜試験
 4日 附属中学校入学者第1次選考（学力検査）
 5日 カリキュラム委員会
 6日 紀要編集委員会
 附属小学校第2次選考（抽選）
 7日 人事教授会
 8日 附属中学校第2次選考（抽選）
 13日 大学院設置準備検討委員会
 14日 情報教育課程運営委員会
 学部教務・補導合同委員会
 学部教務委員会
 教授会
 16日 附属養護学校教育実践研究会
 17日 教育専攻科合格者発表
 21日 人事教授会
 23日 情報教育課程運営委員会
 26日 情報教育課程運営委員会
 学部将来計画委員会

経済学部

2月2日 経済学専攻科入学試験
 経済学専攻科選考委員会
 7日 学部教務委員会
 8日 学部入学方法検討委員会
 人事教授会
 教授会
 9日 学内会計監査
 10日 後学期授業終了
 17日 経済学専攻科合格者発表

理学部

2月5日 学内会計監査
 5～6日 理学研究科（第2次）入学試験
 7日 教授会
 理学研究科委員会
 人事教授会
 9日 理学研究科合格者発表
 14日 事務連絡会
 後学期授業終了
 19日 係長会議
 22日 事務連絡会
 27日 入試改善委員会
 28日 学部将来計画委員会
 人事教授会

工学部

2月
 1～2日 大学院工学研究科（第2次）入学試験
 2日 機種選定委員会
 7日 工学研究科委員会
 学部入学試験検討委員会
 機種選定委員会
 8日 学内会計監査
 9日 学科主任会議
 大学院工学研究科（第2次）合格者発表
 13日 学部教務委員会
 機種選定委員会
 14日 教官要覧編集委員会
 教授会
 工学研究科委員会
 専任教授会
 15日 北陸信越工業教育協会富山県支部講演会

- 15～16日 北陸地区国立大学工学部事務長懇談会
 17日 機種選定委員会
 27日 学部図書委員会

教 養 部

- 2月6日 学内会計監査
 7日 補導委員会
 人事教授会
 教授会
 14日 教養部長候補者選挙
 教授会
 教官定員配置検討委員会
 後学期授業終了
 15日 教授会
 28日 人事教授会

附 属 図 書 館

- 2月1日 係長事務打合せ会
 5日 第9回附属図書館商議会
 9日 学内会計監査
 21日 第8回学術情報センター・シンポジウム
 (於：京都市国際交流会館)

トリチウム科学センター

- 2月9日 R・I教育訓練講演会
 13日 学内会計監査
 15日 R・I特別健康診断

地域共同研究センター

- 2月6日 三重大学関係者視察
 20日 地域共同研究センター運営委員会

保健管理センター

- 2月2日 第1回保健管理センター委員会
 14日 臨時健康診断(教育学部及び教養部スキー
 実習参加者)
 27日 第2回保健管理センター委員会



資料

平成元年度富山大学卒業（修了）者数

(学 部)

学 部	学 科 (課程)	卒業者数	
人 文 学 部	人 文 学 科	98	
	語 学 文 学 科	87	
	計	185	
教 育 学 部	小学校教員養成課程	133	
	中学校教員養成課程	42	
	養護学校教員養成課程	18	
	幼稚園教員養成課程	28	
	計	221	
経 済 学 部	昼間主 コース	経 済 学 科	118
		経 営 学 科	128
		経 営 法 学 科	79
		小 計	325
	夜間主 コース	経 済 学 科	13
		経 営 学 科	16
		経 営 法 学 科	14
		小 計	43
	計	368	
理 学 部	数 学 科	49	
	物 理 学 科	26	
	化 学 科	42	
	生 物 学 科	30	
	地 球 学 科	29	
	計	176	
工 学 部	電 気 工 学 科	52	
	工 業 化 学 科	48	
	金 属 工 学 科	46	
	機 械 工 学 科	53	
	生 産 機 械 工 学 科	48	
	化 学 工 学 科	41	
	電 子 工 学 科	36	
	計	324	
合 計		1,274	

(専 攻 科)

専 攻 科	専 攻	修了者数
教育専攻科	教 育 専 攻	4
	計	4

(大 学 院)

研 究 科	専 攻	修了者数
人文科学研究科	日本・東洋文化専攻	7
	西 洋 文 化 専 攻	3
	計	10
理学研究科	数 学 専 攻	4
	物 理 学 専 攻	14
	化 学 専 攻	5
	生 物 学 専 攻	3
	地 球 学 専 攻	8
	計	34
工学研究科	電 気 工 学 専 攻	9
	工 業 化 学 専 攻	8
	金 属 工 学 専 攻	9
	機 械 工 学 専 攻	8
	生 産 機 械 工 学 専 攻	10
	化 学 工 学 専 攻	7
	電 子 工 学 専 攻	9
	計	60
合 計	計	104

(経営短期大学部)

学 科	専 攻	卒業者数
経 営 学 科	経 営 ・ 管 理 専 攻	2
	計	2

合計 1,384名

平成2年度富山大学学年暦

学期	授業関係等	教 養 部		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部 昼間主コース 夜間主コース	理 学 部	工 学 部
		全学部(夜間主 コースを除く)	経 済 学 部 夜間主コース					
前 学 期	授 業	4月11日(木)~ 7月17日(火)	4月11日(木)~ 7月17日(火)	4月13日(金)~ 7月12日(木)	4月5日(木)~ 7月11日(水)	4月9日(月)~ 7月14日(土)	4月13日(金)~ 7月12日(木)	4月13日(金)~ 7月12日(木)
	夏 季 休 業	7月18日(水)~ 8月31日(金)	7月18日(水)~ 8月31日(金)	7月13日(金)~ 8月31日(金)	7月22日(日)~ 9月2日(日)	7月16日(月)~ 8月31日(金)	7月13日(金)~ 8月31日(金)	7月13日(金)~ 8月31日(金)
	授 業	9月1日(土)~ 9月7日(金)	9月1日(土)~ 9月7日(金)	9月1日(土)~ 9月14日(金)		9月1日(土)~ 9月7日(金)	9月1日(土)~ 9月14日(金)	9月1日(土)~ 9月22日(土)
	期 末 試 験	9月12日(水)~ 9月25日(火)	9月17日(月)~ 9月22日(土)		7月16日(月)~ 7月21日(土)	9月12日(水)~ 9月21日(金)		
後 学 期	授 業	10月15日(月)~ 12月22日(土)	10月15日(月)~ 12月22日(土)	10月15日(月)~ 12月15日(土)	10月22日(月)~ 12月22日(土)	10月15日(月)~ 12月22日(土)	10月15日(月)~ 12月22日(土)	10月15日(月)~ 12月22日(土)
	冬 季 休 業	12月24日(月)~ 1月12日(土)	12月24日(月)~ 1月12日(土)	12月17日(月)~ 1月5日(土)	12月23日(日)~ 1月6日(日)	12月25日(火)~ 1月5日(土)	12月25日(火)~ 1月9日(水)	12月23日(日)~ 1月6日(日)
	授 業	1月14日(月)~ 2月16日(土)	1月14日(月)~ 2月16日(土)	1月7日(月)~ 2月16日(土)	1月7日(月)~ 2月9日(土)	1月7日(月)~ 2月9日(土)	1月10日(水)~ 2月13日(水)	1月7日(月)~ 2月16日(土)
	期 末 試 験	2月21日(水)~ 3月1日(金)	2月21日(水)~ 2月27日(水)		2月15日(金)~ 2月21日(木)	2月14日(水)~ 2月22日(金)		
備 考				教育実習 9月3日(月)~ 10月20日(土)				

- 入 学 式 平成2年4月10日(火)
- 新入生オリエンテーション 平成2年4月10日(火)
及び 12日(水)
- 本学創立記念日 平成2年5月31日(水)
- 卒業(修了)式 平成3年3月25日(月)

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電 話 (24) 1755(代)